

和寺行幸時、法皇○宇御對面後、茶二蓋有御勸、和琴一張、爲御引出物、令進之給、歸幸後、彼和琴被送、進掖主畢、自爾以降、不改其御例、每度如斯云々、

〔安元御賀記〕安元二年、としのついでひのえさる、彌生のはじめの四日、○中今年太上法皇○後いそぢに満たまふによりて、我きみ○高の御賀を奉らせ給ふなりけり、其日の曉、法住寺の南どの

に行幸あり、百のつかさども参り隨へる事常のごとく、院の御所、一町に及ぶ程に、さきの聲を停む、みこしを西のよつあしにかきたつ、○下

〔續日本後紀仁明〕承和元年正月癸丑、○二天皇朝觀後、太上天皇○天皇御叔父淳和院、太上天皇逢迎

各於中庭拜舞、乃共昇殿、賜群臣酒、兼奏音樂、左右近衛府更奏舞、既而太上天皇、以鷹鷄各二聯、嗅鳥犬四牙、獻于天皇、天皇欲還宮、降自殿、太上天皇相送到南屏下也、乙卯、○四天皇朝謁先太上天皇

○父帝及太皇太后○母后於冷泉院、是日先太上天皇御淳和院、以相賀也、○原本有脱字、據類聚國史補

〔續日本後紀仁明〕承和二年正月己酉、○三天皇謁觀先太上天皇○嵯峨及太皇太后○嘉於嵯峨院、

〔續日本後紀仁明〕承和九年正月戊戌、○三天皇朝觀太上天皇○嵯峨及太皇太后宮○嘉於嵯峨院、于

時雅樂寮奏音樂、公卿醉中不勝感興、各起更舞、是日詔授從五位下秋篠朝臣康子正五位下、無位山田宿禰近子從五位上、並太上天皇更衣也、賜扈從五位已上祿、日暉歸宮、

〔續日本後紀仁明〕嘉祥三年正月癸未、○四北風切吹、白雪紛々、天皇朝觀太皇太后○嘉於冷泉院、親

王以下、飲宴酣樂、賜祿有差、須臾、天皇降殿、於南階下、端笏而跪、召左大臣源常朝臣、右大臣藤原良房

朝臣、勅曰、被太后命、爾吾處深宮之中、未嘗見我常御輦之儀、今日事訖、階下登輿、使得相見者、朕再三

固辭、遂未得命、於卿等意如何、大臣等奏云、禮敬而已、如命而可、天皇即登殿、至御簾前、北面而跪、于時寄鳳輦於殿階、天皇下殿、御輦而出、左右見者攬淚、僉曰、天子之尊、北面跪地、孝敬之道、自天子達庶人、

誠哉、